

つたやしのミニネタコーナー

ミニネタ
No.19

返事の意義をきっちり指導しよう!

学年末、6年生の卒業を控えて、何かと行事練習が多くなってきました。指導の際、いろいろな説明や指示をしますが、一連の説明が終わった時に「わかりましたか?」と子どもたちに尋ねることがあるでしょう。この「問い」を発したら、子どもたちに求める返事は、基本的に次のどちらかになります。

- ①「はい(わかりました)」
- ②「いいえ(わかりません)、質問があります」

「わかりましたか?」と尋ねた時、何も反応がない状態を許したままでは、「尋ねられても返事をしなくてよい」と教えたことになります。教師は次のように言うべきです。

「さつき先生は『わかりましたか?』と聞きました。その時に、『はい!』と返事した人は座りましょう(該当者

を座らせる)。今立っている人たちは、何も言わなかった人です。『わかりましたか?』と聞かれて黙っていたということは『いいえ、わかりません。質問があります。』という意思表示なのです。もう一度聞きます。さつき先生が言ったことがわかりましたか?」ここで多くの子どもは「はい!」と答えるでしょう。もし「いいえ」という子どもがいたら質問を受け付けます。

このような指導を通して、意思表示の返事ができる子どもに育てたいですね。



イラスト | 吉田朋子